

教材名

2

【光村】
私たちにできること

組

番

氏名

岩田さんの学級では、生活の中で気になったことについて調べています。岩田さんは、プラスチックごみの問題について調べ、ごみを減らすための行動について学級の友達に提案することにしました。次は、岩田さんが書いている文章の【下書き①】と【下書き②】です。これらをよく読んで、あとの問い合わせに答えましょう。

【下書き①】

提案します わたしたちにできる「プラスチックの3R週間」

■ 知っていますか プラスチックごみの問題

わたしたちの周りには多くのプラスチック製品があります。例えば、ペットボトル、ストロー、レジぶくろなどです。プラスチック製品のおかげで、わたしたちは便利な生活を送ることができます。

しかし、これらのプラスチック製品がごみになると、大きな問題になります。最近の新聞には、海岸に打ち上げられたクジラの胃の中からペットボトルなどが発見されたという記事や、森のサルがプラスチックごみを食べてしまったという記事がありました。わたしは、プラスチックごみが生き物に深くくなえいきょうをあたえていることにアヒジョウにおどろきました。かん境省のホームページによると、世界のプラスチック容器の生産量は、1964年は1500万トンだったのが、2014年には3億1100万トンになっているそうです。以前に比べて増えていることが分かります。

プラスチックは時間がたつと分解されてなくなるだろうと考えている人がいるかもしれません。けれども、

■ みんなで減らそう プラスチックごみ

わたしは、便利だからといってプラスチックを当たり前に使うという考えをやめ、プラスチックごみを減らすためにできることをしたいと思いました。そこで、わたしたちにできる「プラスチックの3R週間」を提案します。3Rとは、ごみそのものを減らすリデュース(Reduce)、くり返し使うリユース(Reuse)、ごみを資げんに変え、再び利用するリサイクル(Recycle)のことです。

わたしたち一人一人の力はとても小さいかもしれません。しかし、その力が積み重なれば大きなものになります。

A大切なことは、行動することが大切だと思います。

【下書き②】

■ やってみよう プラスチックの3R

家人といっしょに、まずは1週間、プラスチックごみを減らすことに取り組んでみませんか。実行できたら□の中に印を入れ、どのくらい実行できているのかをうたしかめましょう。他にも具体的な行動が見つかったら、書き加えて実行してみましょう。

プラスチックの3R週間 チャレンジ表

3 R	具体的な行動
減らそう リデュース (Reduce)	<input type="checkbox"/> バッグを持参し、レジぶくろをもらわない <input type="checkbox"/> ふたつき容器を使い、ラップの使用を減らす <input type="checkbox"/> コップから飲み、ストローを使わない <input type="checkbox"/> 水とうを持ち、ペットボトルを買う回数を減らす <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
くり返し 使おう リユース (Reuse)	<input type="checkbox"/> シャンプーはつめかえ用を買い、容器をくり返し使う <input type="checkbox"/> 液体石けんはつめかえ用を買い、容器をくり返し使う <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
資げんに 変えよう リサイクル (Recycle)	<input type="checkbox"/> ペットボトルをあらい、せん用の場所にする <input type="checkbox"/> 食品用のトレイをあらい、せん用の場所にする <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

- 4 全体を要約した文章を最初に書いている。
- 3 行動することの重要性を最初に書いている。
- 2 身近にある具体例を最初に書いている。
- 1 疑問に思ったことを最初に書いている。

2

- 1 岩田さんは、読者にプラスチックごみの問題を自分のこととしてとらえてほしいと考え、構成をくふうし、【下書き①】の最初に内容を書いています。そのくふうとして最も適切なものの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

教材名

【光村】
私たちにできること

組

番

氏名

2

六年一組の高野さんの学級では、健康な生活のために「早ね早起き朝ごはん」運動に取り組んでいます。高野さんは、これまでの活動の結果を報告文にまとめ、学級のみんなに伝えることにしました。次は、高野さんが書いている「報告文の一部」です。これをよく読んで、あととの問い合わせに答えましょう。

【報告文の一部】

○「早ね早起き」活動のまとめ

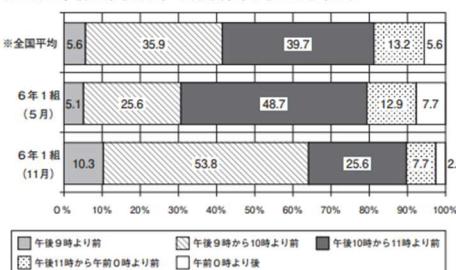
1 成果

アンケート調査の結果、これまでの半年間の活動が成果を上げていることが分かりました。

（図1）のように、活動を始める前の五月の時点では、「次の日に学校がある日」に夜十時を過ぎても起きている人の割合が全国平均を上回り、早ねができるいると見えませんでした。それが半年間の活動後には、夜十時までにねる人の割合が時までにねる人の割合がその理由として、（表1）から、「成長に大事なさいみんを十分にとるために、夜十時まではねましょう。」という保健室の先生のお話がみんなの心に残ったのだと考えます。他にも、毎日体を動かすように、体育がない日にクラスで外遊びを行う活動や、「健康せんげんカード」に早ね早起きができたかを記録する活動を行ったこともあげられます。

〈図1〉

次の日に学校がある日は、ふだん何時ごろにねますか。



（※全国平均は、文部科学省「平成26年度家庭教育の総合的推進に関する調査研究
—障害を中心とした生活習慣と子供の自立等との関係性に関する調査—」に基づく。）

2 課題

成果があつた一方、生活のリズムを保つという点で、今回の活動では改善できず、これから解決していく課題があることが分かりました。課題は（図2）から分かるようになります。

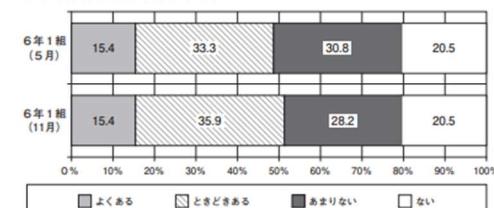
3 解決方法

この課題を解決するためには、テレビやゲームの時間、メールなどをする時間、そして「健康せんげんカード」の記録方法について考える必要があることが（表2）から分かります。

- 休みの日にも「健康せんげんカード」に記録をつけるよう
- そこで、わたしたちは多くの人が取り組める次のような解決方法を考えました。今後は、これらを解決方法に取り組んでいきたいと思います。
- 「朝ごはん」活動について
- （報告文が続く）

〈図2〉

次の日に学校がない日は、学校がある日に比べて、ねる時刻が2時間以上おそくなることはありますか。



〈表2〉

ねる時刻が2時間以上おそくなる理由は何ですか。
(いくつ答てもかまいません。) (6年1組 11月)

夜おそくまでテレビを見たり、ゲームをしたりしているから。	20人
夜おそくまで友達とメールなどをしているから。	14人
休みの日は「健康せんげんカード」に記録しなくともいいから。	10人
家族のみんなも起きているから。	4人
その他	7人

〈表1〉

早ねをするようになった理由は何ですか。
(いくつ答てもかまいません。) (6年1組 11月)

保健室の先生のお話から、すいみんが成長に大事だと分かったから。	23人
毎日体を動かしたら、早くねられるようになったから。	14人
「健康せんげんカード」に記録するから。	9人
早ねを毎日続けるようにしたら習慣になったから。	8人
早ねをしたら授業に集中できるようになったから。	5人
その他	11人

- 1 問題点を解決しながら、さらに成果が上がる活動につなげることができる。
- 2 活動に取り組むよさが明らかになり、それを多くの人に広めることができる。
- 3 成果が強調されて、この活動の必要性をより強く感じることができます。
- 4 この活動に取り組み始めるようになつた、最初のきっかけに気づくことができる。

正答率: 58.5%

1

